

仮名手本忠臣蔵

か な で ほん ちゅう しん ぐら

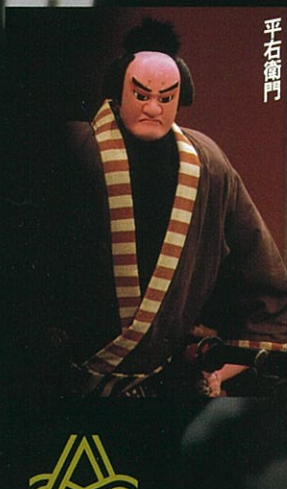
■昼の部解説下馬先進物の段・殿中刃傷の段・裏門の段・塩谷判官切腹の段・城明渡しの段
 ■夜の部解説二つ玉の段・身売りの段・早野勘平腹切の段・祇園一力茶屋の段

恋と、義と、泣くのは誰。

文楽

BUNRAKU

人形浄瑠璃(主催)文楽協会(後援)文化庁



平右衛門



勘平



おかる



塩谷判官



師直



芸術文化振興基金助成事業

Photo by Hisao Kawahara and Design by Y. Asahara

'02年 **3/21**(木・祝) 昼の部13:30 夜の部17:30 開演 **京都芸術劇場「春秋座」** (左京区・京都造形芸術大学内)
 (開場は開演の30分前)

- 入場料：5,000円(音協会員4,500円)全席指定
 学生券1,500円 当日指定(京都音協プレイガイド、京都芸術劇場、大学生協のみで販売)
- 発売場所：京都音協プレイガイド 075 (211) 0261
 チケットぴあ 06 (6363) 9966 [Pコード406-403]
 ローソンチケット 06 (6387) 1900
 e+(イープラス) <http://eee.eplus.co.jp/west/>
 京都芸術劇場、大学生協、京都会館プレイガイド

- 主催：日本文化財団、京都造形芸術大学、京都音協
- 後援：京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会議所、国際交流基金京都支部
- 協賛：株式会社日栄
- 協力：フラットウェル

【交通】●JR京都駅/阪三條駅/阪急河原町駅より、市バス5番岩倉行きで上終町京都造形芸大前下車●地下鉄北大路駅より、市バス204循環で上終町京都造形芸大前下車●叡電茶山駅下車徒歩10分
 【お願い】駐車場が使用できませんので、ご来場には電車、バス、タクシーなどをご利用下さい。



●お問合せ先：京都音協 075 (211) 0261 〒604-8006 京都市中京区河原町三條上ル西側ルート河原町ビル2F (10:00AM~6:30PM/日・祝休み)

〔第一部〕

あらすじと文楽人形の解説

三段目下馬先進物の段

竹本 津国大夫
鶴澤 清志郎

殿中刃傷の段

豊竹 松香大夫
野澤 喜左衛門

裏門の段

勘平 竹本 相子大夫
おかる 豊竹 睦大夫
伴内 竹本 文字栄大夫
野澤 喜一郎

四段目塩谷判官切腹の段

竹本 伊達大夫
竹澤 団七

城門渡しの際

竹本 相子大夫
鶴澤 清丈

吉田 蓑二郎

〈人形役割〉

高師直 桐竹 勘
鶴坂伴内 吉田 玉志
加古川本蔵 吉田 勘市
塩谷判官 吉田 文司
早野勘平 十日まで 吉田 蓑太郎
桃井若狭助 吉田 蓑二郎
茶道珍才 桐竹 一輔
腰元おかる 吉田 和生
奴 大 吉田 和生
近習 大 吉田 和生
侍 大 吉田 和生
門番 大 吉田 和生
大名 大 吉田 和生
家来 大 吉田 和生

〈人形役割〉

原郷右衛門 吉田 玉志
石堂石馬之丞 吉田 玉志
薬師次郎左衛門 吉田 清五郎
塩谷判官 吉田 文雀
大星力弥 吉田 和右
大星由良助 吉田 玉幸
顔世御前 吉田 蓑一郎
諸士 大 吉田 和生
腰元 大 吉田 和生

〔第一部〕

あらすじと義太夫節の解説

五段目二つ玉の段

与市兵衛 竹本 文字栄大夫
定九郎 豊竹 始大夫
勘平 豊竹 睦大夫
竹澤 団吾

竹本 文字久大夫
鶴澤 清志郎

〈人形役割〉

百姓与市兵衛 吉田 文司
斧定九郎 吉田 玉輝
早野勘平 十日まで 吉田 蓑太郎
女房おかる 吉田 和生
与市兵衛女房 桐竹 勘寿
一文字屋才兵衛 吉田 蓑二郎

六段目身売りの段

豊竹 呂勢大夫
竹澤 宗助

早野勘平腹切の段

切 竹本 綱大夫
鶴澤 清二郎

〈人形役割〉

めつぼし弥八 桐竹 紋若
種ヶ島の六 桐竹 紋秀
狸の角兵衛 吉田 玉勢
原郷右衛門 吉田 玉志
千崎弥五郎 吉田 幸助
鷹籠屋 大 吉田 幸い

七段目祇園一力茶屋の段

おかる 豊竹 嶋大夫
由良助 竹本 千歳大夫
平右衛門 竹本 文字久大夫
九太夫 豊竹 始大夫
鶴澤 清介

〈人形役割〉

斧九太夫 吉田 文哉
遊女おかる 吉田 文雀
大星由良助 吉田 玉幸
寺岡平右衛門 十日まで 吉田 蓑太郎
十一日から 吉田 玉女

（メリヤス）豊竹 呂勢大夫
鶴澤 清志郎

望月太明蔵社中

仮名手本忠臣蔵

元禄十五年（二七〇二）十二月十四日、播州赤穂の浪人が吉良邸に討ち入りました。この事件はさつそく浄瑠璃や歌舞伎に取り上げられ、寛延元年（二七四八）八月十四日には竹田出雲、三好松洛、並木千柳の合作による「仮名手本忠臣蔵」が大坂道頓堀竹本座で初演されます。実名での劇化は禁じられていたので、浅野内匠頭を塩谷判官、吉良上野介を高師直、大石内蔵助を大星由良助と変えてあります。

（第一部）のあらすじ

新田義貞を滅ぼし京都に室町幕府を開いた足利尊氏の威勢は、国中におよんでいます。尊氏の弟の直義は管領となり、鎌倉山に新御殿を建てました。桃井家の家老の加古川本蔵は、高師直に黄金と豪華な反物を献上し、「このたびの主人桃井若狭助の饗応役が無事とまるよう引き廻していただきたい」と願います。

一方殿中では若狭助が、先日師直に侮辱された無念を晴らそうと刀に手を掛け待ちかまえていました。ところが師直が手のひらを返した丁寧な態度なので、拍子抜けして奥へ去ります。そこへ塩谷判官が登場し、妻顔世御前から言付かった文箱を師直に差し出します。実は師直は顔世御前に横恋慕し、艶書を渡していたのでした。返歌を読み恋の叶わぬことを知った師直は、判官に怒りをぶつけ雑言をあげせます。腹に据えかねた判官は、師直に斬り付けてしまいます。

蟄居を命じられた塩谷判官に、「領地は没収、判官は切腹」という厳しい処分が伝えられました。切腹の場に国元から国家老の大星由良助が駆けつけます。判官は「わが鬱憤を晴らしてくれ」と、形見に自分が腹を切った刀を与え、由良助は主君の遺志を胸に、城を去って行きました。

（第二部）のあらすじ

早野勘平は塩谷判官の家来ですが、主君の一大事のために腰元おかると逢瀬を楽しんでいて間に合いませんでした。今はおかるの実家に身を寄せ、帰参の時を待っています。おかるは祇園へ身を売ってお金を作ることにします。父与市兵衛は身受けの半金を受け取り帰る途中、山賊に金を奪われ殺されてしまいます。ところがその山賊も、勘平が猪を狙って撃った鉄砲の玉に当たって死にます。勘平は介抱しようとし、死人の懐の財布に気づき「御用金が手に入った」と喜び大急ぎでその場を離れます。

祇園の二文字屋が約束通りおかるを迎えにきました。勘平は二文字屋の話から「夕べ暗闇で殺したのは舅だったのか」と愕然とします。そこへ狐師仲間が与市兵衛の死骸を運んできました。勘平の不審な態度に母親が「親殺し」と責めているところへ、突然塩谷家の家臣の原郷右衛門と千崎弥五郎が訪ねてきます。「不忠不義のお金は受け取れない」と二人に言われ、勘平は腹を切り夕べの出来事を物語るのです。与市兵衛の死骸を改めた二人は勘平の無実を確信し、主君仇討ちの連判状に血判をさせます。

大星由良助は祇園の二力茶屋に居続けて遊んでいます。主君塩谷判官の奥方顔世御前からの密書を読んでいると、二階からは勘平の妻おかるが、縁の下からは師直に内通する斧九太夫が盗み読みします。それと知った由良助はおかるに身請けの話を持ちかけました。突然の身請け話に浮き浮きするおかる、そこへ兄の平右衛門が現れます。由良助の真意を悟った兄は妹に斬りかかりました。おかるの口から密書の内容が漏れるのをふせぎ、その功により連判に加わりうと考える平右衛門です。様子をうかがっていた由良助は、平右衛門を一味に加え、おかるには夫勘平に代わり敵の九太夫を討たせてやるのでした。